



2022年冬季ボーナスアンケート調査（宮崎県内） ～インターネットアンケート調査～

当研究所は、宮崎県内における消費動向や生活実感などを探るため、ボーナスアンケート調査を実施している。今回、県内の給与所得者等を対象にインターネットアンケートによる冬季ボーナス調査を実施し、結果をまとめた。

【調査結果の概要】

1. 冬季ボーナスは、全体の73.2%が「支給される」と回答した。増減見込みは「減りそう」が前年より低下し、「同じくらい」が上昇した。
2. ボーナスの見込み額は「10万円以上30万円未満（41.9%）」が最も多い。
3. 使いみちは「貯蓄（70.8%）」、貯蓄の目的は「老後の生活（45.3%）」、貯蓄の方法は「定期性預貯金（54.7%）」が最も多い。
4. クレジット・ローン返済は、「自動車（56.1%）」が最も多い。
5. ボーナスでの購入予定品は「衣料品（58.5%）」が最も多く、買物予定先は「通販・ネット販売（55.6%）」がトップだった。
6. 最近1年間の県外〔九州5市（注1）〕での買物頻度では、福岡市は「2～4回」、他の4市は「1回」、交通手段では「乗用車」が最も多い。
7. 今後の旅行・レジャーの行き先は、「九州（除く沖縄）（71.0%）」が最も多い。
8. 生活状況は「変わらない（53.9%）」が最多で、DI（注2）は「▲32.5」と前年比21.9ポイント（以下「P」）悪化した。
9. 品目別の物価状況DI（注3）は「食品（生鮮食品を除く）（+91.1）」が最も高い。
10. 新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」）の状況下における買物の変化では「マスクは必ず着用している（73.2%）」が最も多い。

注1）福岡市、北九州市、大分市、熊本市、鹿児島市の5市

注2）生活状況が「良くなった」割合－「悪くなった」割合

注3）物価が「高くなった」割合－「安くなった」割合

調査の実施要領

調査時期：2022年11月17日（木）～11月24日（木）

調査対象：宮崎県内の給与所得者等

調査方法：インターネットアンケート（マクロミル社）

回答者数：557人

回答者の属性（単位：人、%）

年代別	人数	構成比	世帯別	人数	構成比	性別	人数	構成比	職業	人数	構成比	
20歳代以下	123	22.1	独身	250	44.9	男性	279	50.1	会社員	497	89.2	
30歳代	155	27.8	既婚	子供有り	257	46.1	女性	278	49.9	公務員	60	10.8
40歳代	141	25.3		子供無し	50	9.0	合計	557	100.0	合計	557	100.0
50歳代以上	138	24.8	合計	557	100.0							
合計	557	100.0										

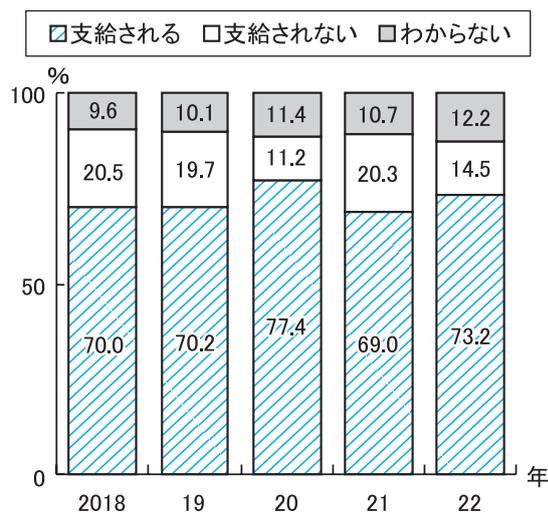
※本レポートの図表は、四捨五入の関係で、内訳の総和と合計が必ずしも一致しない

1. ボーナス支給の有無と増減見込み

(1) 「支給される」が73.2%

冬のボーナスは「支給される」の割合が73.2%と前年比4.2P上昇し、「支給されない(14.5%)」は同5.8P低下した(図1)。

図1. 冬季ボーナス支給の有無

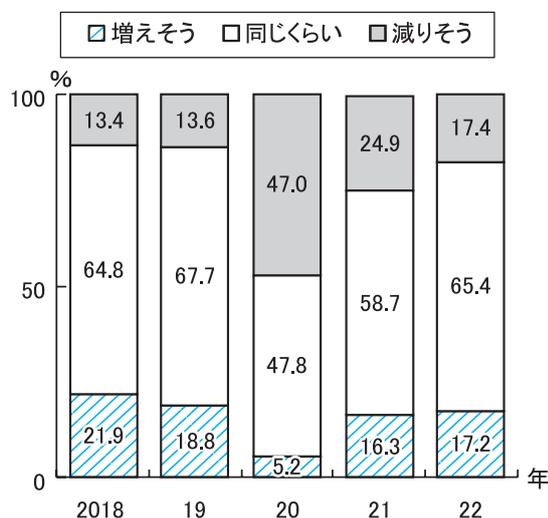


(2) 増減見込みは「同じくらい」が最多

ボーナスの増減見込みは、「同じくらい(65.4%)」「減りそう(17.4%)」「増えそう(17.2%)」となった(図2)。

「同じくらい」は前年比6.7P上昇し、「減りそう」は同7.5P低下した。

図2. 冬季ボーナスの増減見込み



2. ボーナスの見込み額

「10万円～30万円未満」が最多

ボーナスの見込み額は、全体で「10万円～30万円未満(41.9%)」が最も多く、「30万円～50万円未満(27.2%)」と続いた(図3)。

会社員は、「10万円～30万円未満(46.3%)」が最も多いものの、前年比1.4P低下した(表1)。「10万円未満」「30万円～50万円未満」の割合は、前年より上昇した。

図3. ボーナスの見込み額

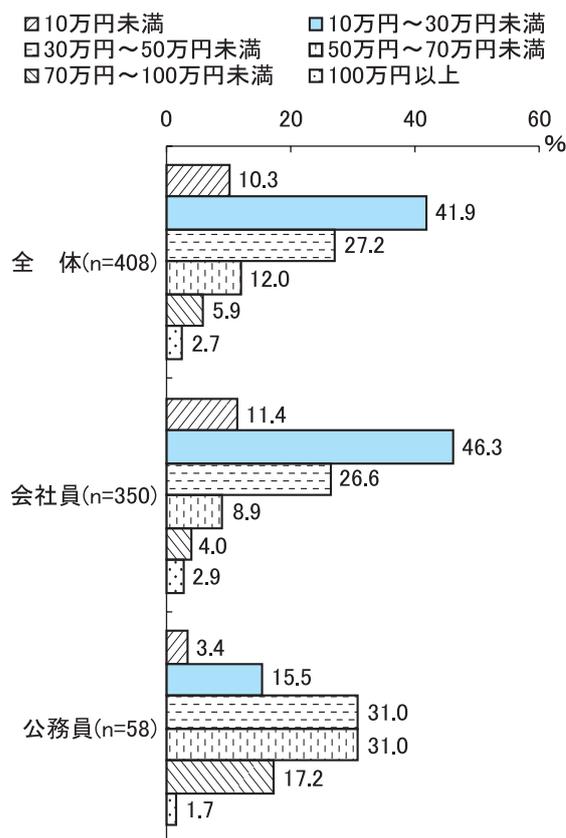


表1. 会社員の見込み額

(単位: %、P)

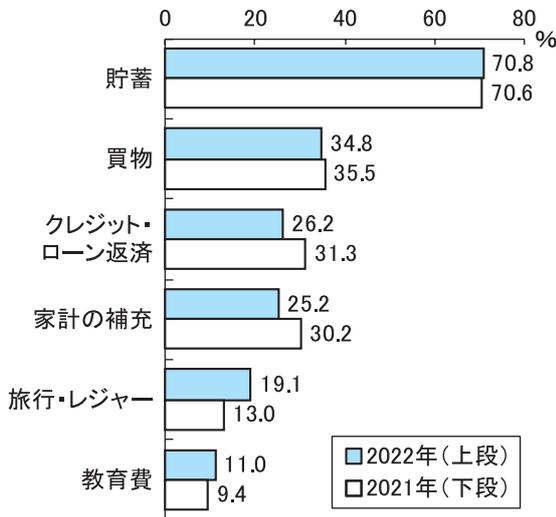
	10万円未満	10万円～30万円未満	30万円～50万円未満	50万円～70万円未満	70万円～100万円未満	100万円以上
2022年	11.4	46.3	26.6	8.9	4.0	2.9
2021年	10.0	47.7	25.0	9.3	5.3	2.7
前年比	1.4	▲1.4	1.6	▲0.4	▲1.3	0.2

3. ボーナスの使いみち(複数回答)

「貯蓄」が最多

ボーナスの使いみちは「貯蓄(70.8%)」が最も多く、以下「買物(34.8%)」「クレジット・ローン返済(26.2%)」「家計の補充(25.2%)」と続いた(図4)。前年比では「旅行・レジャー(+6.1P)」が上昇し、「クレジット・ローン返済(▲5.1P)」「家計の補充(▲5.0P)」は低下した。

図4. ボーナスの使いみち(複数回答)



(1) 「貯蓄」

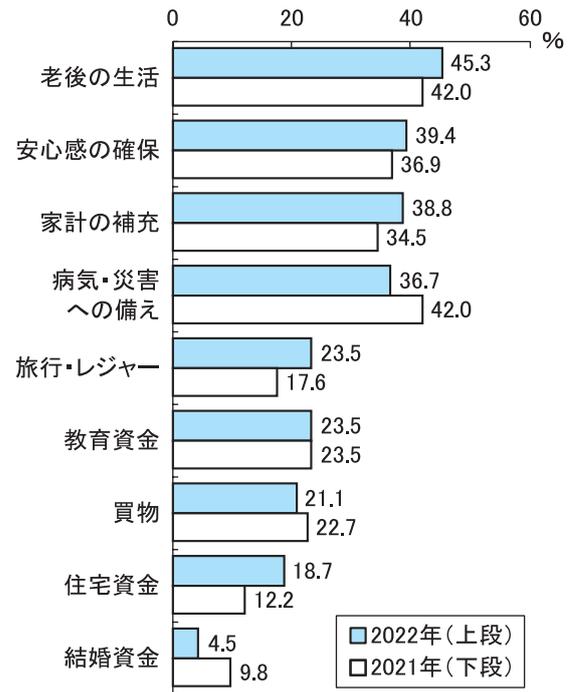
①貯蓄の目的(複数回答)

「老後の生活」が最多

貯蓄の主な目的は「老後の生活(45.3%)」が最も多く、「安心感の確保(39.4%)」「家計の補充(38.8%)」と続いた(図5)。

前年比では、「病気・災害への備え」が5.3P低下して4位となった一方、「老後の生活」は3.3P上昇して1位となり、将来に備えて長期的に蓄える意向がみられた。

図5. 貯蓄の目的(複数回答)

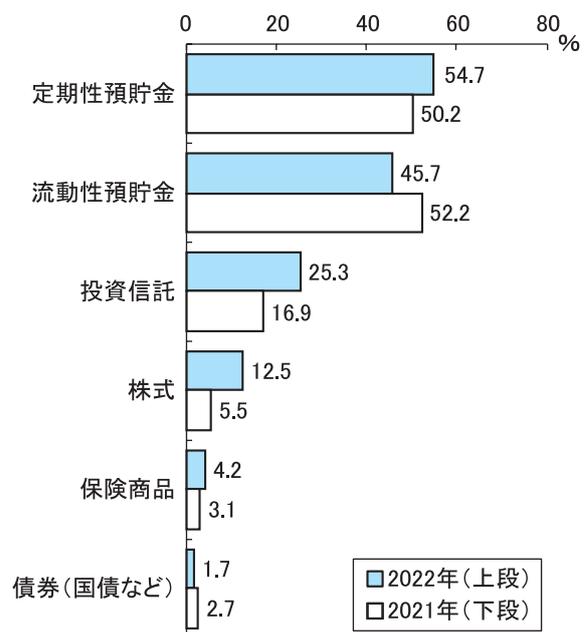


②貯蓄の方法(複数回答)

「定期性預貯金」が最多

貯蓄の方法は、「定期性預貯金(54.7%)」が前年比4.5P上昇し、「流動性預貯金(45.7%)」が同6.5P低下したことから順位が入れ替わった(図6)。「投資信託(25.3%)」は同8.4P上昇した。

図6. 貯蓄の方法(複数回答)



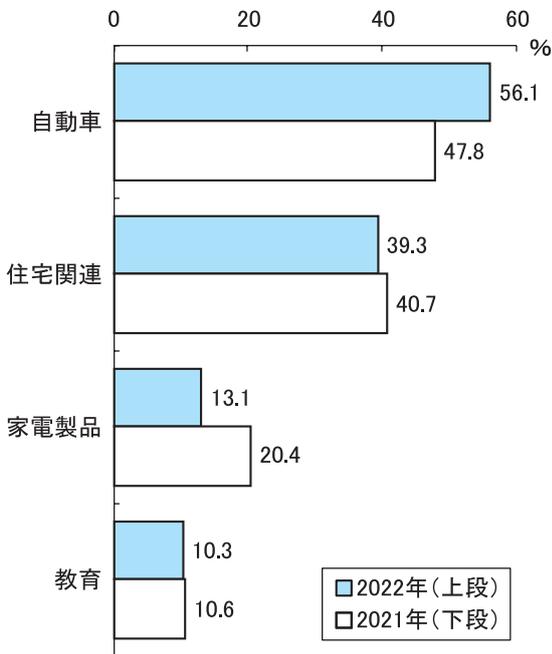
(2) 「クレジット・ローン返済」 (複数回答)

「自動車」が56.1%

クレジット・ローン返済では「自動車(56.1%)」が最も多く、次いで「住宅関連(39.3%)」となった(図7)。

前年比では「自動車」が8.3 P上昇した一方、他の項目は低下した。

図7. クレジット・ローン返済予定の内容(複数回答)



(3) 「買物」

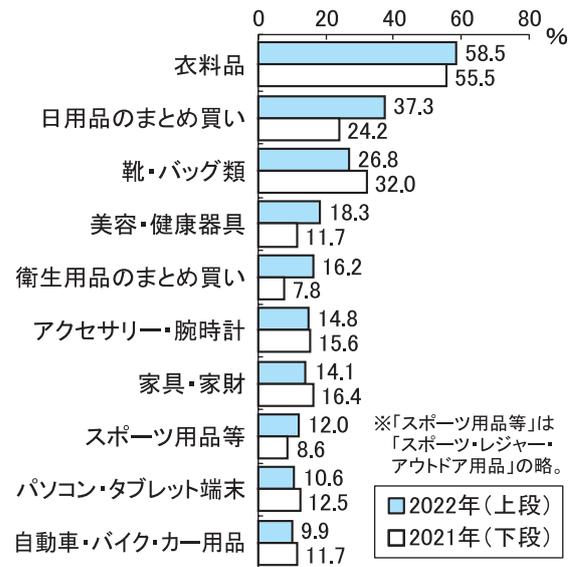
①購入予定品(複数回答)

「衣料品」が最多

購入予定品は「衣料品(58.5%)」「日用品のまとめ買い(37.3%)」「靴・バッグ類(26.8%)」となった(図8)。

前年比では「日用品のまとめ買い(+13.1 P)」「衛生用品のまとめ買い(+8.4 P)」「美容・健康器具(+6.6 P)」が上昇し、「靴・バッグ類(▲5.2 P)」「家具・家財(▲2.3 P)」は低下した。

図8. 購入予定品(複数回答)



②買物予定先の店舗形態(複数回答)

「通販・ネット販売」がトップ

買物予定先の店舗形態では、「通販・ネット販売(55.6%)」が最多で、「ショッピングセンター(大型店)(以下「SC」)(45.1%)」が続いた(表2)。

居住地別では、3市とも「通販・ネット販売」が最多で、「延岡市」は73.1%と3市の中で最も多かった。

「スーパー」「ディスカウントストア」「ドラッグストア」は、総じて前年比上昇し、低価格店を選ぶ傾向にある。

表2. 買物予定先の店舗形態(複数回答)

買物先 居住地	(単位:%)					
	通販・ ネット販売	SC (大型店)	スーパー	ディスカ ウントストア	ドラッグ ストア	デパート
全体	55.6	45.1	29.6	26.8	26.8	21.8
	54.7	46.9	15.6	18.0	18.8	25.8
宮崎市	55.6	48.9	31.1	26.7	22.2	37.8
	51.1	60.0	17.8	17.8	15.6	31.7
都城市	48.1	44.4	37.0	29.6	29.6	18.5
	59.1	22.7	13.6	27.3	27.3	27.3
延岡市	73.1	50.0	30.8	30.8	34.6	19.2
	63.2	31.6	15.8	21.1	21.1	26.3

回答者数 142人

※上段:2022年 下段:2021年

③買物予定地（複数回答）

居住地別では、「宮崎地区」「都城地区」「延岡地区」で地元を買物予定地とする回答が最も多く、「日南地区」「小林地区」は、地元と「宮崎市」が同率となった（表3）。

「県外」は、「都城地区」「延岡地区」「小林地区」で前年を上回った。

※ 地区名と居住地内訳

宮崎地区	宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡
都城地区	都城市、北諸県郡
延岡地区	延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡
日南地区	日南市、串間市
小林地区	小林市、えびの市、西諸県郡

表3. 買物予定地（複数回答、居住地別）

(単位:%)

買物地 居住地	宮崎市	都城市	延岡市	日南市	小林市	県外
宮崎地区	98.3 96.3	1.7 5.6	- 1.9	- -	1.7 -	5.2 9.3
都城地区	56.7 30.4	83.3 91.3	- -	- -	- -	16.7 13.0
延岡地区	40.0 34.3	2.2 -	62.2 60.0	- -	- -	28.9 17.1
日南地区	50.0 77.8	25.0 22.2	- -	50.0 44.4	- -	- 11.1
小林地区	80.0 85.7	40.0 57.1	- -	- -	80.0 71.4	40.0 14.3

回答者数 142人

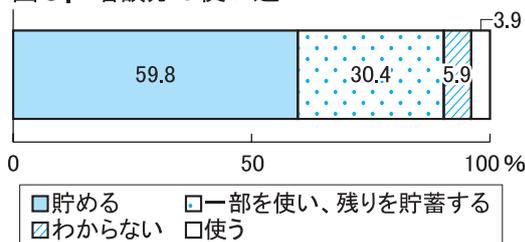
※上段:2022年 下段:2021年

コラム

Q. ボーナスの受給額が増えたら、増額分はどうしますか？

増額分の使いみちは「貯める(59.8%)」、次いで「一部を使い、残りを貯める(30.4%)」となった(図9)。

図9. 増額分の使い道



4. 最近の県外での買物動向

(1) 買物頻度

最近1年間の、県外九州5市への買物頻度は、福岡市が「2～4回」福岡市以外は「1回」が最も多かった(表4)。

表4. 県外での買物頻度(複数回答) (単位:%)

頻度	福岡市	北九州市	大分市	熊本市	鹿児島市
1回	43.7	56.3	49.2	50.4	53.1
	48.3	57.1	48.2	45.6	49.4
2～4回	47.9	22.9	32.5	32.6	29.2
	37.9	14.3	31.3	33.3	31.8
5～9回	3.4	12.5	12.7	9.3	9.2
	5.2	19.0	12.0	12.3	11.8
10回以上	5.0	8.3	5.6	7.8	8.5
	8.6	9.5	8.4	8.8	7.1

回答者数 130人

※上段:2022年 下段:2021年

(2) 交通手段

県外九州5市への交通手段は全ての市で「乗用車」が最も多く、前年比でも全市でそれぞれ上昇した(表5)。前年比では、北九州市で「飛行機(▲10.1P)」、福岡市で「高速バス(▲6.4P)」が低下しており、乗用車を利用する様子がかがえる。

表5. 県外九州5市への交通手段 (単位:%)

交通手段	福岡市	北九州市	大分市	熊本市	鹿児島市
乗用車	61.3	68.8	89.7	92.2	90.8
	60.3	47.6	89.2	82.5	88.2
高速バス	16.0	14.6	4.0	5.4	3.1
	22.4	23.8	3.6	5.3	2.4
JR	3.4	10.4	6.3	2.3	6.2
	6.9	9.5	6.0	10.5	9.4
飛行機	15.1	4.2	-	-	-
	5.2	14.3	-	-	-
B&S(※)	4.2	2.1	-	-	-
	5.2	4.8	-	-	-

回答者数 130人

※上段:2022年 下段:2021年

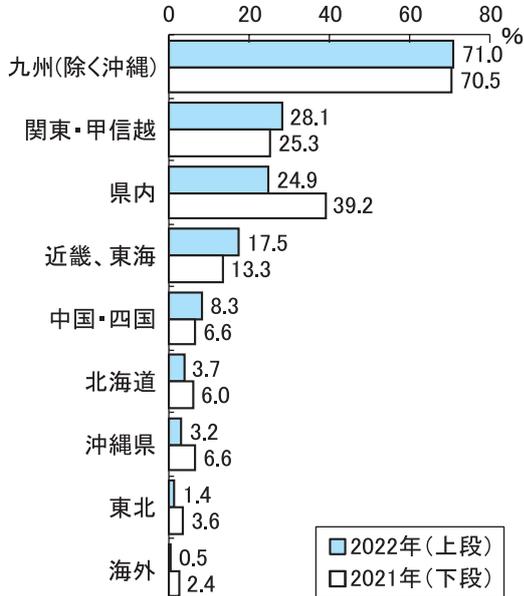
※「B&Sみやざき」の略称。Bus & Shinkansenの頭文字で、博多駅～新八代駅(熊本)～宮崎駅間を新幹線と高速バスで運行する

5. 今後の旅行・レジャーの行先 (複数回答)

「九州」が最多

今後の旅行・レジャーの行先は、「九州(除く沖縄)(71.0%)」が最も多く、「関東・甲信越(28.1%)」と続いた。「県内(24.9%)」は前年比14.3P低下し、「関東・甲信越」と順位が入れ替わった(図10)。

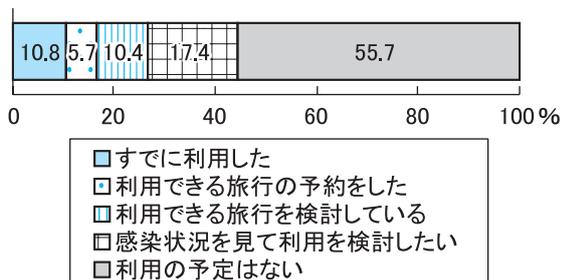
図10. 今後の旅行・レジャーの行先(複数回答)



回答者数 217人

2022年10月11日～12月27日の旅行代金を補助する「全国旅行支援」の利用では「利用の予定はない(55.7%)」が最も多く、「感染状況を見て利用を検討したい(17.4%)」と続いた(図11)。

図11. 全国旅行支援の利用状況



6. 現在の生活状況

全体では「変わらない」が53.9%

現在の生活状況は、全体では「変わらない(53.9%)」が最も多く、「悪くなった」は39.3%、「良くなった」が6.8%で、生活状況DIは▲32.5となった(表6)。

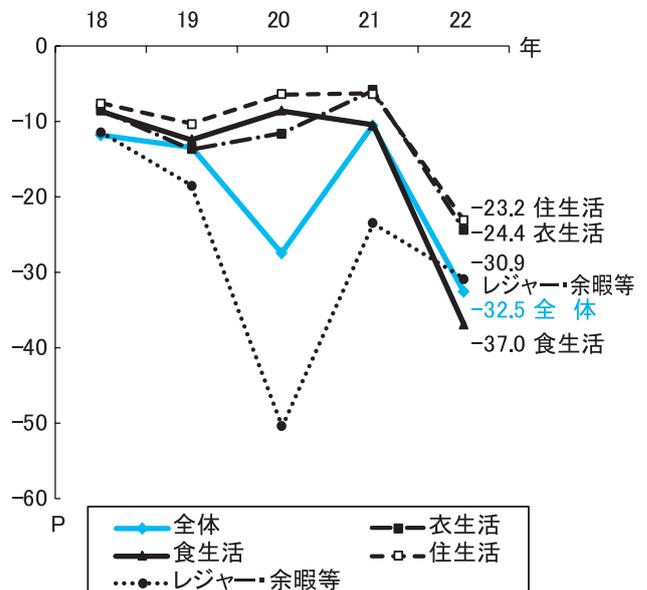
前年比では、「全体」のDIが21.9P悪化し、項目別でも総じて前年より悪化し、「食生活(▲37.0)」は食料品の値上げ等から同▲26.5Pの大幅悪化となった。(図12)。

表6. 現在の生活状況 (単位:%、P)

生活状況	良くなった	変わらない	悪くなった	DI
全体	6.8	53.9	39.3	▲32.5
衣生活	12.0	65.4	22.6	▲10.6
食生活	5.0	65.5	29.4	▲24.4
住生活	6.9	80.3	12.8	▲5.9
レジャー・余暇等	6.3	50.4	43.3	▲37.0
住生活	10.5	68.5	21.0	▲10.5
住生活	5.0	66.8	28.2	▲23.2
住生活	6.7	80.3	13.0	▲6.3
レジャー・余暇等	8.1	53.0	39.0	▲30.9
レジャー・余暇等	10.5	55.4	34.0	▲23.5

※上段:2022年 下段:2021年

図12. 生活状況DIの推移



7. 現在の物価状況

現在と前年の物価を品目別に比較した状況は、全ての品目でD Iがプラスとなり、「物価高」を実感する結果となった(表7)。

品目別では、「食品(生鮮食品を除く)(+91.1)」が最も高く、「日用品(+78.1)」「光熱水道費(+77.3)」と続いた。穀物価格の上昇、原油等資源価格の上昇、為替レートの円安などから物価も上昇傾向にあり、前年比では「外食費(+60.0 P)」「被服・履物(+50.8 P)」等の上昇が目立った。

表7. 品目別物価状況 (単位: %、P)

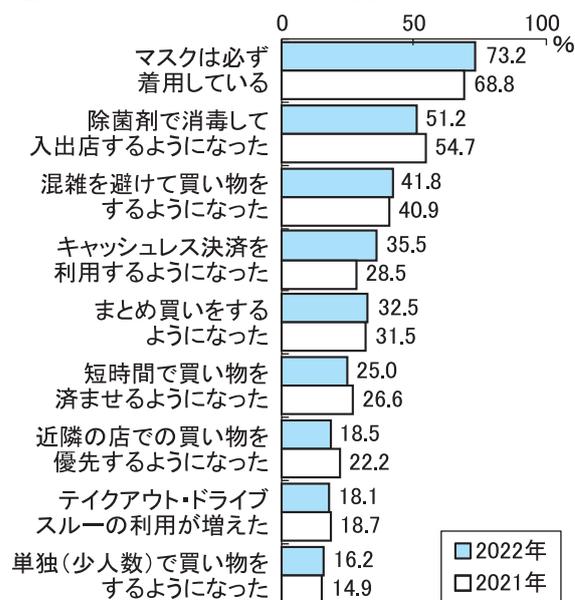
品目	物価			D I (A)	前年 (B)	前年比 A-B
	高い	不変	安い			
食品(生鮮食品を除く)	91.9	7.3	0.8	91.1	55.0	36.1
日用品	79.6	18.9	1.5	78.1	30.1	48.0
光熱水道費	78.9	19.5	1.6	77.3	41.0	36.3
交通費	70.6	28.4	1.0	69.6	39.5	30.1
耐久消費財	70.3	28.6	1.1	69.2	29.8	39.4
嗜好品(酒等)	71.2	25.2	3.6	67.6	22.5	45.1
外食費	66.4	27.6	6.0	60.4	0.4	60.0
家具・家事用品	61.4	37.2	1.4	60.0	10.1	49.9
被服・履物	54.5	42.2	3.3	51.2	0.4	50.8
娯楽・趣味	53.1	41.4	5.6	47.5	4.0	43.5
通信費	46.2	48.3	5.5	40.7	7.7	33.0
医療費	39.8	58.0	2.2	37.6	18.0	19.6
教育費	40.1	57.0	2.9	37.2	13.1	24.1
保険料	39.1	58.6	2.2	36.9	17.2	19.7
住居費	31.3	66.9	1.8	29.5	11.1	18.4

8. コロナ禍での買物の変化

コロナ禍での買物の変化では「マスクは必ず着用している(73.2%)」が最も多く、次いで「除菌剤で消毒して入出店するようになった(51.2%)」「混雑を避けて買い物をするようになった(41.8%)」となった(図13)。

前年比では、上位3位に変動は見られないが、「キャッシュレス決済を利用するようになった(35.5%)」は同7.0 P上昇し、「まとめ買いをするようになった(32.5%)」と順位が入れ替わった。

図13. コロナ禍での買物の変化



9. まとめ

今回の調査は、前年並みのボーナス支給額を見込む回答が多く、使いみちは、老後の生活のために貯蓄する回答が多かった。買物は「衣料品」「日用品のまとめ買い」、買物先は「通販・ネット販売」が多かった。旅行・レジャー先では、遠方の地域の回答が増えたものの、全国旅行支援の利用は一部に慎重な回答もみられた。物価は「食品」「日用品」など原材料や資源の高騰による影響をうかがわせる回答が増えた。生活状況D Iは物価高の影響から総じて前年より低下した。今後とも、物価の上昇傾向が予想され、節約志向の消費が続くと考えられる。(勝池)